



ルーテル学院だより

No.152
2022.12.1

http://www.luther.ac.jp/
発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611 FAX:0422-33-6405
発行人 石居 基夫

授業探訪 「地域福祉論 I・II」



市川一宏 教授

〈専門分野〉
社会福祉制度政策、地域福祉、高齢者福祉
〈主要担当科目〉
社会福祉原論Ⅱ、地域福祉論ⅠⅡ、実習指
導、卒業演習（高齢者福祉・地域福祉論）

地域福祉論の授業はどのようなことを学ぶのですか？

この授業では、地域福祉の制度や政策、地域福祉の専門援助技術を学びます。参加型の授業を目指し、ディスカッションを大切に、自分が生活者として何を感じることができの学んでもらおうと思っています。また自分が住んでいる地域はどのような地域なのか、どのような特徴があるのか、どのような課題があるのか、社会資源はどうなっているのか、行政の役割、社会福祉協議会の役割、社会福祉法人の役割はどうなっているのか。これらを実際に学んでいきます。

この授業を学ぶ人に期待することはありますか？

専門職として学ぶべきことはきちんと学びます。しかし同時に、「専門職である前に一人の人間」として、今の生活問題、地域問題をとらえ、困難に直面する住民を理解できる人材に育って欲しい。またどういった社会を目指すのか、一人の住民として、また地域福祉に関わる専門職として考えて欲しいと思っています。

地域で起こっている問題は何も特別な問題ではなく、貧困や孤立といった問題は私たちの生活にとっても密着しています。児童とか高齢者とか障がい者という縦割りの捉え方とは違い、それらを横軸で示したのが地域福祉です。たとえば、地域の助け合い、ボランティア活動、災害時の支援、在宅福祉サービス、コミュニティケア、生活困窮者自立支援、バリアフリーの推進等を、授業で取り上げます。

また、各自が生活している地域の地域関係、住民関係、伝統文化、地理的条件、地域福祉活動の実績も、学生には知って欲しい。上から地域福祉の枠組みをかぶせるのではなく、地域にある様々な資源を活用して、それぞれの地域に合った取り組みを作り上げて欲しいと思います。

この授業にはどのような特徴がありますか？

まず地域福祉がどのように発展してきたかを学びます。例えば1955年から始まった高度経済成長期では、核家族化が急速に進み家族機能が低下し、一人暮らし高齢者の生活を守る必要が生じました。その結果、今日のホームヘルプ、デイサービス等の起源となる在宅福祉が成立します。1960年代後半以降では、施設の在り方が問われ、ボランティア等の地域住民が施設の運営に関わるといった施設の在り方が求められてきます。さらに2000年代になると孤立や生活困窮の問題が大きな生活課題となり、自助・共助・公助という新たな地域福祉が論じられてきます。すなわち、

地域福祉は、時代と共に変遷してきます。今は、コロナの影響で、貧困、孤立、不安等、社会には深刻な生活問題が顕在化しています。今まで何とか生活を維持してきたような、脆弱な生活基盤のもとに暮らしていた人がコロナの影響で基盤を失っています。そして、顕在化している問題以上に、多くの危機が、社会の中で深く潜行し、進行しているのです。

そこで、地域福祉の担い手である社会福祉協議会、行政、NPO、ボランティア、民生委員といった個人もしくは団体の実践を検証します。実践事例を通して、それぞれの可能性を模索します。

福祉を学びたい方に伝えたいことはありますか？

福祉というのは0か100の活動ではありません。やるかやらないかの極端な議論ではなく、その間には1から99の地域福祉活動があるはずですから99の地域福祉活動があるはずですから可能な取り組みを、協働して行ってみませんか。その際に必要なことは、自分の活動を説明できる力、相手を理解する力、協働する力です。これは、地域福祉を推進する専門職には必要な力で、学生には意識的に学んで身につけて欲しいことです。

最近、ボランティア活動が停滞しているのではないかとという意見を聞くことがあります。ボランティア・市民活動とは、連帯・協働して、地域社会を耕す自発的な活動であるという信念をもっています。ボランティア活動を通して、一本の木を植え続け、砂漠化した地域の緑化をしていきませんか。

報告 高校生夏休み特別プログラムを開催しました。

心の専門家になるために、ルーテルで学ぼう

准教授 石川与志也

8月2日に、臨床心理学に関心のある高校生を対象とした体験型のプログラムを行いました。このプログラムは、講義が中心のオープンキャンパスとは異なり、少人数でともに活動をしながら体験を通して心理学について学んだり交流したりできることが特色です。高校1年生から高校3年生までの9名が参加し、臨床心理コースの教員全員と共にキャンパスで半日を過ごしました。プログラムは、アイスブレイク、心理学実験を実際に行う体験を通して心理学について学ぶ講義、臨床心理相談センターを含むキャンパスツアー、

福祉の「い」と「いつ」について学ぼう

准教授 浅野 貴博

高校生を対象にした夏休み特別プログラムとして、8月10日に「福祉のしごとについて学ぼう」を対面とオンラインを併用して開催しました。猛暑の中、8名の参加者がありました。講義では、河田優チャプレンが「人を支援すること」をテーマに、キリスト教精神から本学のミッションについて話されました。また、本学大学院の修士生である柏木忠祐氏（福）伊勢原市手をつなぐ育成会 指定特定相談支援事業所（ドリーム）からは、「私が感じる『仕事の魅力』」と題して、主に知的障がい者支援を通じて考え、感じてきたことについて具体的な経験を交えて語って頂きました。さらに、対面での参加者にはキャンパスツアーを実施し、チャペルや図書館等を見学する



機会を持ちました。少人数でしたが、本学での学びの魅力の一端を感じる機会になったのではないかと思います。以下、アンケートから参加者の感想の一部を紹介します。

カウンセリングの基礎となるコミュニケーションを体験する実習、学部のカリキュラムや資格についての説明、そして懇談という内容でした。キャンパスツアーと懇談には、在学生も加わりルーテルで学ぶ学生と直接関わる中で、大学や学生生活について話ができる機会となりました。

参加した高校生たちは、最初は緊張も見られましたが、共に講義を受けたり、実習を行ったりすることで、和気藹々とした雰囲気の中で互いに交流をし、積極的に発言をするようになっていきました。参加者の皆さんにとって、心理学への興味を刺激し、ルーテル学院大学への関心を持つ機会となっていればと思います。

・ルーテル学院大学の特徴であるキリスト教を基盤とした学びを体感することができました。キリスト教の教えを色々な視点から考えていくことによって、心の問題や対人支援の分野につながるものがあり、福祉を学ぶ上で欠かせないものだと感じることもできました。

・柏木さんのお話を聞く中で、仕事をする上で大切な考え方や魅力について知ることができました。普段なかなか聞くことができない内容で、ますます福祉への興味が湧きました。支援する人と一緒に成長していったり、関わる人とワクワクを共有できるといったやりがいも話していただき、大変なことも多い仕事だと思いますが、それと同じくらい楽しい職場でもあるかなと思いました。



ルーテル学院大学

特別プログラム 3月28日(火) 2023年春 春の高校生のための体験講座開催

高校生の皆さん、大学の学びを体験してみませんか？

まずは気軽に行ってみよう！
詳しくはwebサイトで。



お申し込み・お問合せ先
ルーテル学院大学企画広報センター
☎ 0422-32-2949 メール koho@luther.ac.jp



社会福祉士新カリキュラムによる新実習

ソーシャルワーク実習Ⅰ担当教員 福島喜代子

2021年度から、「地域共生社会の実現」のために必要なソーシャルワーク機能を、社会福祉士がより強く担うため、国の社会福祉士養成カリキュラムが改正されました。今回の改正の目玉は、社会福祉士のための実習時間が180時間から240時間に拡充されたこと、2か所以上の実習施設で実習を行うことが求められることです。これは、①複合化・複雑化した課題へ多機関協働で包括的に相談支援する体制の構築や、②地域住民等が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制の構築に対応できる社会福祉士を養成するためとされています。

本学においても、学年進行で新しいカリキュラムに移行しています。社会福祉士実習に関しては、本学では2022年度より「ソーシャルワーク実習Ⅰ（新）」を開始しました。これは、合計240時間実施する社会福祉士実習の第1段階として位置づけられたものです。大学2年生（または3年生）を対象学年とし、主に「地域住民等が主体的に地域課題を把握して解決を試みる」場を中心に30時間の実習を行うこととしました。

実習先の依頼にあたっては、近隣市の社会福祉協議会との関係性を活かし、近隣4市（三鷹市、小金井市、調布市、小平市）の社会福祉協議会に実習の受け入れを依頼しました。その中には、本学コミュニティ人材養成センターにおいて10年以上実施してきた「地域福祉ファシリテーター養成講座」等を通じてつながりが続いている市もあります。4市とも快く受け入れを承諾してくださりました。

学生は、4市に3〜6名ずつ配置されつつありますが、消毒やソーシャルディスタンスなど運営上の負担は以前より増えていると感じます。私たちは高齢者、児童、障がいをお持ちの方など、あらゆる対象者とその家族が純粹にスポーツを楽しめる環境のお手伝いをしたいと考えています。

サークル探訪

はじめまして！

スポボラです

サークル顧問 准教授 廣瀬 圭子



非公認サークル「スポーツボランティア（スポボラ）」は、2022年4月に結成された新しいサークルです。ルーテル学院大学には様々なボランティアサークルがありますが、このサークルではスポーツイベントに特化した活動を行っています。

2年半の長かったコロナ禍の終わりが見え始め、スポーツイベントが再開

地域における小地域福祉活動の場（子ども食堂、高齢者向けのサロンや協議体、多世代の集うサロン等、多種多様な場）での実習を行いました。4市の社会福祉協議会の担当者の方が、ていねいに各市の小地域福祉活動団体と調整してくださり、学生はとても充実した実習を行いました。

9月中旬の学内の実習報告会では、学生が4市4様の小地域福祉活動や、学生が本実習にどのような目的を持ち参加し、何を学んだのかなどを報告し、深い学びをしたことが伝わりました。そして、何より、学生たちが、実習を終えて、自信をつけ、地に足がついた様子となった様子がよくわかりました。

なお、本学が従来から依頼してきた、通所・入所施設など、「利用者の生活の場」における実習は、少し実習時間を増加していただいた上で引き続きお願いしています。こちらの名称は「ソーシャルワーク実習Ⅱ」として実施することとしています。

三鷹阿波踊り振興会から

感謝状をいただきました。

三鷹阿波踊りボランティアに参加した学生の感想 当日は水飲み場で水やゼリーを配りました。三鷹市民の方たちも他のボランティアの皆さんも優しくしてください。良い経験になりました。まだ非公認サークルですが、今後は人数が増えるといいなと思います。そして三鷹市以外の活動もみんな広げていきたいなと思います。

このような感謝状を三鷹阿波踊り振興会の方たちからいただけたらと思っていなかったのですが、とてもうれしかったです。阿波踊りのお手伝いをしていただき、三鷹市民の皆さんがとても親切で励まされました。今後は他大学との交流などもできたらいいなと思っています。

1年 中尾 友亮

2022年度 前期卒業式報告

チャプレン 河田 優

創立記念日の翌日9月28日、ルーテル学院大学2022年度前期卒業式が行われました。建学の精神を胸に、新たに本学から社会に遣わされる人たちが与えられたのです。パイオルガンが奏でられるチャペルには学生や教職員が集い、厳かに式は始まりました。式では石居基夫学長が「共に生きるカタチ」と題して説教を行いました。石居学長は、人は神に似せて造られたこと（創世記1・26）を取り上げ、そのカタチは主イエスの生涯にある通り、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」（ローマ12・15）生き方となって現れることを話されました。

その後、3名の学部卒業生に総合人間学部人間福祉心理学科卒業証書、院修了生は2名に臨床心理学専攻修士課程学位記、1名に社会福祉学専攻修士課程学位記が授与されました。この数年にわたるコロナ禍にあつて、卒業する6名は多くの困難の中で辛抱強く学び続け、この喜びの日を迎えたのです。その体験こそが「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」対人援助の働きへと結びつくことでしょう。

この日、晴れて本学を卒業した一人ひとりの歩みが、主のお守りのうちにあることを願います。



入試日程

入学試験要項・願書は本学のホームページからダウンロードしてお使いください。

選抜方式	区分	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
総合型選抜	Ⅲ期	11/28(月)～12/12(月)	12/17(土)	12/23(金)	12/26(月)～1/13(金)
	Ⅳ期	2/6(月)～2/17(金)	2/22(水)	2/27(月)	2/28(火)～3/13(月)
	Ⅴ期	2/20(月)～3/6(月)	3/11(土)	3/13(月)	3/14(火)～3/20(月)
一般選抜	スカラシップ型	1/6(金)～1/26(木)	2/3(金)	2/10(金)	2/13(月)～2/24(金)
	一般試験型		2/7(火)		
	大学入学共通テスト利用型	Ⅰ期	2/6(月)～2/17(金)	—	2/27(月)
社会人入試 (1年次、編入学)	Ⅱ期	1/6(金)～1/26(木)	2/7(火)	2/10(金)	2/13(月)～2/24(金)
	Ⅲ期	2/20(月)～3/6(月)	3/11(土)	3/13(月)	3/14(火)～3/20(月)
	Ⅱ期	1/6(金)～1/26(木)	2/7(火)	2/10(金)	2/13(月)～2/24(金)
編入学入試	Ⅲ期	2/20(月)～3/6(月)	3/11(土)	3/13(月)	3/14(火)～3/20(月)
	Ⅱ期	1/6(金)～1/26(木)	2/7(火)	2/10(金)	2/13(月)～2/24(金)
留学生入試 (1年次、編入学)	Ⅱ期	1/6(金)～1/26(木)	2/7(火)	2/10(金)	2/13(月)～2/24(金)

入試についてご質問のある方、個別相談を希望される方は下記までお気軽にお問合せください。お問合せ 電話 0422-32-2949 メール koho@luther.ac.jp

中学生の職場訪問

事務長 坂田 好和

ルーテル学院大学がある三鷹市の中学校では、2年生の時に市内の様々な事業所での職場体験を行っています。コロナ禍で一緒に仕事をする体験の形式ではなくりましたが、それぞれの事業所の活動やSDGsの取組みなどを聞く職場訪問という形でこの2年間も行われています。

本学でも10月20日に三鷹市立第二中学校の生徒10名をお迎えし、大学の取組みを紹介しました。その後、質問もたくさんいただきました。「どのような人材を育てていますか?」「キリスト教を基盤にしている」とありますが具体的なことはどのようなことをしています。



か?」「仕事をしていく上でのやりがいは何ですか?」「今後、SDGsについて取り組もうとしていることは何ですか?」など、熱心な質問をいただき、答えさせていただきました。SDGsの17の目標のうち、「貧困をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」「平和と公正をすべての人に」などは、本学が提供している教育目標です。人に寄り添う対人援助の力を身に付けることを目指している大学だということを説明させていただきました。

中学校では、1年生の時から「総合」の時間で、SDGsに関する学習に取り組んでいるとのことでした。事前学習をしてきて、質問を準備してこの訪問に臨んでくださっていました。とても熱心に取り組んでいることが伝わってきました。ルーテル学院大学でもこのような中学校との関わりをはじめ、地域貢献に資する事業を展開してまいります。